

令和2年度学校自己評価システムシート (県立春日部高等学校定時制の課程)

目指す学校像	基礎学力を身に付け、人権尊重の精神を養い、一人ひとりの生徒が生き生きと共に学び合う学校
--------	---

重点目標	1 安心安全な環境の中で、基本的な生活習慣を身に付けさせ、規範意識と自己管理能力を育成する。 2 「わかる授業」を実践し、進路に応じた学力の向上を図る。 3 キャリア教育を実践し、進路希望を実現する。 4 学校・家庭・地域社会への情報発信を通じて、魅力ある学校づくりを推進する。
------	--

達成度	A	ほぼ達成(8割以上)
	B	概ね達成(6割以上)
	C	変化の兆し(4割以上)
	D	不十分(4割未満)

※学校関係者評価実施日とは、最終回の学校評価懇話会を開催し、学校自己評価を踏まえて評価を受けた日とする。

出席者	学校関係者	8名
	生徒	3名
	事務局(教職員)	11名

※ 重点目標は3つ以上の設定も可。重点目標に対応した評価項目(年度達成目標を意味する。)は複数設定可。
 ※ 番号欄は重点目標の番号と対応させる。評価項目に対応した「具体的方策、方策の評価指標」を設定。

学 校 自 己 評 価							
年 度 目 標				年 度 評 価 (月 日 現 在)			
番号	現状と課題	評価項目	具体的方策	方策の評価指標	評価項目の達成状況	達成度	次年度への課題と改善策
1	不登校経験者や外国籍など、多様な生徒が在籍している。一人一人の生徒の社会的な自立をめざし、基本的な生活習慣を身に付けさせるとともに、コロナ禍の中でも他者を尊重し、自他の安全に配慮した生活を送れるよう指導していく必要がある。	中途退学者数を減少させる。	<ul style="list-style-type: none"> 教職員間の情報共有 家庭との連携 SC、SSWとの連携 特別支援教育巡回指導員の導入 中学校への協力要請 	中途退学者が減少したか。	残念ながら中退者は減少しなかった。6月22日の学校再開直後から、1学年の退学が続き10名の退学者が出た。	B	新型コロナウイルスの流行が来年度も続くことを考えると感染防止対策の徹底は継続しなければならない。休校措置が取られなければ、新入生の指導も例年並みにできるものと考えている。
		安全な環境を保つ。	<ul style="list-style-type: none"> 新型コロナウイルスに対応したガイドラインの徹底 健康状況の把握と対応 	生徒の健康被害は防がれたか。	ガイドラインの徹底により、健康被害にあう生徒の発生はなかった。		
2	落ち着いた学習環境の中、きちんと授業に参加している生徒が大部分であるが、生徒の実態を踏まえた「わかる授業」を実践し、個に応じて、社会人として必要な基礎的な学力を定着させることが必要である。20%を超える外国籍生徒への日本語の定着も必要である。	授業理解度を向上させる。	<ul style="list-style-type: none"> 教員相互の全定の授業見学等による授業改善 授業アンケートの実施 	「授業が理解できている」という回答率が向上したか。	教科の授業アンケートでは「授業がわからない」という回答が5%前後と概ね達成できた。	A	教職員の丁寧な指導が形になっているので、来年度も継続する必要がある。
		個に応じた指導体制をさらに効果的なものとする。	<ul style="list-style-type: none"> 個に応じた指導(少人数、習熟度別、TTなど)の実施 外部指導者(多文化共生推進員、学習サポーター、特別支援教育巡回指導員)の活用 	外部指導者の活用による効果はあったか。	支援を必要とする生徒への対応については概ね達成できた。		
3	4年間をとおして適切で健全な勤労意識や職業観を育成し、進路希望実現に向けた目的意識を培うことで、卒業後の進路満足度を今以上に向上させることが必要である。また、特別な支援を必要とする生徒に対して特別支援教育巡回指導員の活用も必要である。	個に応じた進路決定を行う。	<ul style="list-style-type: none"> 進路講演会、ソーシャルスキル講演会等の実施 総合的な探求の時間の活用 生き方在り方教育、人権教育の実施 特別支援教育巡回指導員等と連携しての個別の就職指導計画(面接指導等)の充実 個別の進学指導計画(進学補習等)の充実 	進路決定の質(満足度)は向上したか。	就労移行支援も含めて準備したが、活用する該当者は出なかった。新型コロナの影響による求人減少が生徒の選択の幅を狭めた可能性はあるが、卒業後の離職率から満足度を測りたい。	B	今年度は就労移行支援事業所等を活用する生徒はいなかったが、今後も様々なケースを想定して準備しておく必要がある。
4	「学び直し」「やり直し」の場としての本校の存在意義を説明し、本校のよさをPRするとともに、HP等とおして最新の学校情報の提供を継続する。	中学校・学習支援センター・保護者との連携を充実させる。	<ul style="list-style-type: none"> 学校見学を重視し、受検前の授業見学を必須とする。 中学校等の訪問により安易な受検にならないよう協力を求める 学校行事実施後や部活動大会後等のHP更新 	個別の学校見学を通じて、学校理解の上での志願が行われたか。	適応指導教室との連携、入学希望者・保護者との面談を通じて受検希望者に対する情報提供と志望校確定までの道筋を示すことができた。	A	受検前からどのような特性を持った生徒が、どのような希望を持って志望してくるのか把握することは必要であり来年度も継続する必要がある。

学 校 関 係 者 評 価	
実施日	平成 年 月 日
学校関係者からの意見・要望・評価等	
<p>コロナ禍にあつて多様な生徒を指導していくことは困難を伴っていたと考える。</p> <p>日々、安心安全な学校づくりに取り組むとともに with コロナの社会に対応する指導を続けて頂きたい。</p>	
<p>外部指導者を活用して多様な生徒に対応していることは評価できる。</p> <p>わかりやすい授業を実践することは様々な背景を持つ生徒たちの大きな励みになると考える。</p>	
<p>「個に応じて」と言うは容易いがなかなか難しい。来年度も継続して方策実現に向けて尽力をお願いしたい。</p> <p>就職後の離職率等を分析することによって見えてくる部分もあるのではないかと。卒業後の進路は生徒にとって一番の大事なもので今後も尽力してほしい。</p> <p>着実に方策に向かっている。</p>	
<p>定時制においては福祉的な側面も持っているため、適応指導教室等と連携して生徒と学校との相互理解を深める現在の方策を継続してほしい。</p>	